日本の雨の美しさを再発見するための視覚表現

Visual design to rediscover a viewpoint of Japanese "rain" in Japan

王 怡文[1)]　須永剛[2)]
WANG YI_wen [1)]　SUNAGA Takeshi [2)]
1）東京藝術大学大学院 美術研究科　2）東京藝術大学

Abstract : Theme of this research is visual expression enjoying "rain" for Japanese people. These days, most of Japanese seems to be gloomy when it rains. However, Japanese have been making good relationship with "rain" for a long time.Therefore, we focus on "the phenomena which only happen on the rainy days in Japan" and "their feelings which only happen on the rainy days", and we suggest the beautiful viewpoint of Japanese "rain".

Key Word : Japan, Rain, Visual design

1. はじめに

日本は一年を通して雨が降る。そして日本には雨の降り方や、降っている様子を表す「雨」に関する言葉が 400 以上存在している。これにより、昔の日本人が積極的に雨を楽しんでいたと考えることができる。つまり、古来より日本人と雨には切っても切り離せない密接な関係がある。

しかしながら、近年社会における多くの人々は雨の良さを忘れ、雨を鬱陶しい存在だと思っていると考えられる。原因として、発達した文化や忙しい日常に気を取られ雨を楽しむ余裕がなくなっていることや、次第に上記にある「雨」に関する言葉を親しむ機会が減ってきているからだと推測できる。

また、それだけではなく、雨を楽しむ昔の知恵が現代には適応しておらず、このことにより現代社会においては、昔の日本から受け継がれてきた雨を表現する言葉たちや、雨を楽しむ気持ちを徐々に失われてきていると考えられる。

そこで、古くから伝わる日本人と雨との関係を持続させるために、先代からの雨の楽しみ方を現代に合わせて再発見し、これからの新しい雨の楽しみ方を提案したいと考えた。

そのために、現代での人々と雨の関わり方をふり返ってみることで雨の新しい楽しみ方を気づかせる視覚表現作品をデザインした。

2. 目的

本デザインの最終的な目的は、古くから日本に伝わる雨との関係を現代に引き継ぐために、日本での雨の美点や、雨との関わり方や楽しみ方を再発見し視覚的に表現することである。

3. デザイン方法

デザインの方法は①雨の日を記録②記録から日本の雨の美点を分析、再発見③分析を元に視覚表現の制作、というプロセスである。

4. デザインのプロセス

4.1. 雨の日を記録、調査

今回の研究では、東京の雨の日の時間別の感情や事実をドローイング、詩等で表現し記録した。

記録するに当たって、雨の降った時間を朝 (9 時～ 11 時)、昼 (12 時～ 15 時)、夕方 (16 時～ 18 時) 夜 (19 時～ 24 時) の 4 つ、場所を (家、室内、屋外、車内、店内) の 3 つに分類し集まった調査より抜粋し表 1、表 2 のようにまとめた。

表 1．時間別にみた雨の日の感情や事実

朝 (9 時～11 時)	雨の音で目覚める/傘を選んで家を出る/天気予報をみる/長靴をはく/わくわく　等
昼 (12 時～15 時)	傘から水滴が滴る/眠くなる/室内で多くを済ます/雨の音と環境音が混ざる　等
夕方 (16 時～18 時)	赤黒い空の色/水たまりに空が反射する/夕焼けが濡れた建物に反射する　等
夜 (19 時～24 時)	信号が濡れた道路に反射して色が広がる/濡れた地面がキラキラする/しっとり　等

表 2．場所別にみた雨の日の感情や事実

家、室内	窓をたたく雨の音/室内の色の変化　等
屋外	空の色の変化/地面の反射/傘の色　等
車内、店内	窓につく水滴の形/雨漏りの音　等

4.2. 日本の雨の美点を分析、再発見

表 1、表 2 の結果を踏まえて、日本の雨の美点を分析した。上記の記録、調査により、雨の日の美点とは、「雨の日にのみ体験できる前触れのない非日常」だと推測できる。

そして「雨の日にのみ体験できる前触れのない非日常」には二つの要素があり、一つ目は「雨の日にのみ感じることのできる非日常的な感情」であると考えられる。

そして二つ目は「雨の日にのみ起こる非日常的な現象」である。その非日常的な現象は 5 つあり、それは雨の日にのみ出会える光、色、形、音、事態だと考えられる。

日本における雨の美点

a. 気持ち　・喜/哀

b. 現象　・光/色/形/音/事態

図 1．雨の美点の分析結果

そして、「雨の日にのみ体験できる前触れのない非日常」のなかでもより印象深く心を動かす場合がある。

それは、「非日常的な儀式や、出来事」と「雨の日」が同時に起こる際であると推測される。

図 2. 展示風景

図 3. イラスト

図 4. 銀のシルクスクリーン印刷

「非日常的な儀式や、出来事」の簡単な例をあげるならば、卒業式や、失恋、入社式、同窓会、旅行など一般的に認識されているものから、体育の授業や、忘れ物をしたとき、驚いたときなど、人ごとに感じかたが異なる出来事も含まれる。

4.3. 視覚表現の制作

4.1.、4.2. の記録、分析から、現代日本における雨の美点を抽出し、昨今の日本ならではの雨の日の楽しみを再発見できるような視覚表現を制作した。

雨の上から下へ落ちる縦の動きから作品サイズを図 1 のように縦長とし、文章で「雨の日にのみ感じることのできる非日常的な感情」を、そしてイラストを使い「雨の日にのみ起こる非日常的な現象」を表現した。

表現する情景としては「非日常的な儀式や、出来事」と「雨の日にのみ体験できる前触れのない非日常」の二点が重なった具体的な出来事を 5 つ選択し、より観覧者の共感を得易いよう制作した。表現した具体的な事象は以下の表 3 である。

表現として色は二色に絞り、情景の最も主要な雨を感じられる部分はシルクスクリーンで銀色を刷り視線がいくように目指した。

表 3. 表現した主な事象

①幼少期両親の帰省に付いて行った先での雨の記憶
②学生時代大雨の日に父親の大きな黒い傘を借りた記憶
③卒業式の帰りに雨の中帰った記憶
④子供の塾の迎えをした際バケツいっぱいに入った子供用傘を見た記憶。
⑤急な雨に降られ喫茶店から街を眺めながら仕事をした記憶。

5. 作品展示の結果と今後の展開

この作品の展示を見て、雨を好きだという人から、より好きになったとの話や、詩として表現した事象へに共感したなどの意見が寄せられた。また、雨に興味を持っていなかった人からも、今後さらに雨の日を意識して過ごそうと思った、雨の日をもっと気分良くすごす工夫を知りたいという意見が寄せられた。

このデザインを通じて、雨の日を意識して楽しんでいる人や、雨を良いものだと認識している人が少ないことがわかった。

また、このデザインの展開方法は古くから日本に伝わる雨との関係を現代に引き継ぐために、日本での雨の美点や、雨との関わり方や楽しみ方を再発見し視覚的に表現することがメインテーマだったが、視覚表現にとどまらず、書物や、「雨との関わり方や楽しみ方を再発見する」ためのプロダクトなどさらなる展開の可能性もあると感じた。

今回の作品を見た人の中で一番多かった内容が、より多くの作品を見たいという意見だったため、より人の心を動かし日本での雨の美点や、雨との関わり方や楽しみ方を知ってもらうためには、今回表現した 5 つの事象はまだ数として足りていないと考えられる。そのため、より多くの事象を探し視覚表現として提案することでより日本人と雨との関係を表現をとおして探ることができると考えている。

参考文献

高橋順子「雨の名前」小学館　2001 年

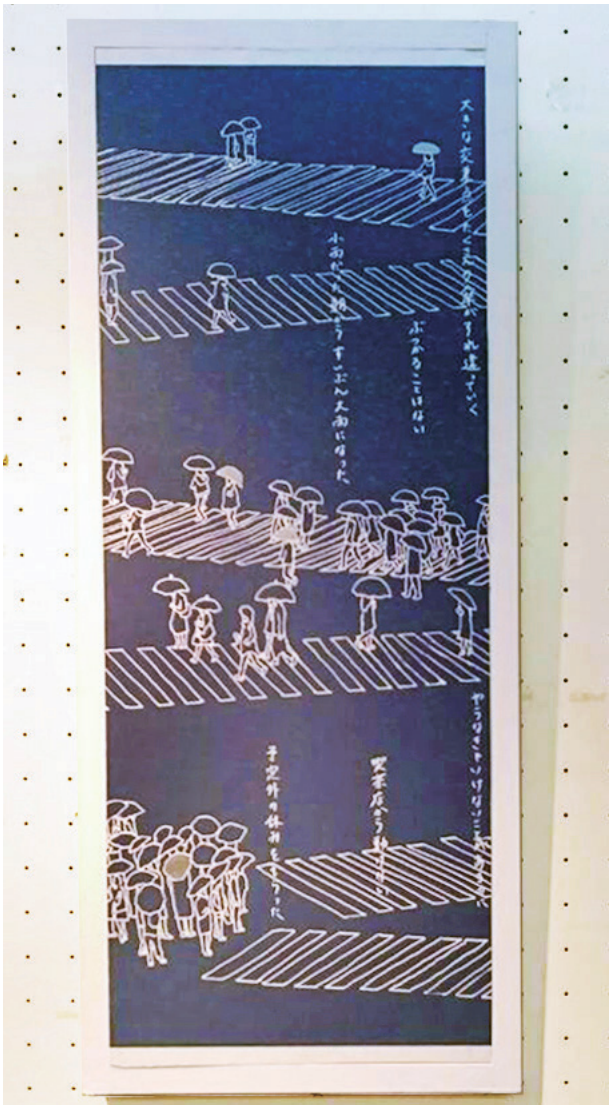

図 5. 作品の全体像